

第1回 加古川市教育振興基本計画検討委員会 会議録

会議名称	第1回加古川市教育振興基本計画検討委員会
開催日時	令和2年6月19日（金）9時30分から12時まで
開催場所	青少年女性センター 大会議室
出席者	<p><委員></p> <p>安藤福光委員、澤田真弓委員、田中宏昌委員、菅原悦夫委員、藤本静代委員、上内浩嗣委員、大西武美委員、徳田敬子委員、清水玲子委員、南山雅子委員</p> <p><職員></p> <p>小南教育長、高井教育総務部長、山本教育指導部長、吉田教育総務部次長、杉本教育指導部次長、神吉教育指導部参事、稲岡教育総務課長、松尾学校教育課長、中川教育総務課副課長、山脇学校教育課指導主事、岡本教育総務課管理調整係長、三村教育総務課管理調整係主査</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状の交付 3 教育長あいさつ 4 委員紹介 5 職員自己紹介 6 加古川市教育振興基本計画検討委員会の概要説明について 7 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員長の選出及び職務代理者の指名について (2) 教育委員会からの諮問について (3) 第3期「かこがわ教育ビジョン」の基本的事項について (4) 加古川市の教育を取り巻く環境の変化と課題について (5) 国及び兵庫県の第3期教育振興基本計画について (6) 第3期「かこがわ教育ビジョン」の策定の方向性について (7) 第3期「かこがわ教育ビジョン」における指標の設定について (8) 第2期「かこがわ教育ビジョン」の総括について (9) 第3期「かこがわ教育ビジョン」の策定スケジュール（予定）について 8 閉会
配付資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 検討委員会の位置づけ及び委員名簿 2 加古川市教育振興基本計画検討委員会規則 3 諮問書 4 第3期「かこがわ教育ビジョン」の基本的事項について 5 加古川市の教育を取り巻く環境の変化と課題について 6 国及び兵庫県の第3期教育振興基本計画について 7 第3期「かこがわ教育ビジョン」の策定の方向性について 8 「かこがわ教育ビジョン」における指標の設定について 9 第2期かこがわ教育ビジョン（加古川市教育振興基本計画）の総括について 10 第3期「かこがわ教育ビジョン」の策定スケジュール（予定） 11 第2期かこがわ教育ビジョン（冊子）

1 開会

2 委嘱状交付

3 教育長あいさつ

みなさん、おはようございます。本日は大変お忙しい中、第1回加古川市教育振興基本計画検討委員会にご出席をいただきまして本当にありがとうございます。また、委嘱状をお渡しいたしました。大変ご多忙の中、加古川市教育振興基本計画検討委員会委員にご就任いただきまして、まことに感謝を申しあげます。さらに平素から委員の皆様にはそれぞれのお立場で本市の教育行政、学校教育、社会教育全般にわたりまして、様々な面でご協力いただいておりますことを改めて感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

さて、加古川市の教育行政は平成28年3月に策定いたしました第2期かこがわ教育ビジョンに基づき、進めているところでございます。かこがわ教育ビジョンは教育基本法に基づき策定しているものでございまして、第2期かこがわ教育ビジョンについては、令和2年度を目標年次とした基本理念を掲げつつ、総合的かつ計画的に取り組むべき施策を示したものとなっております。今年度には本市の教育を取り巻く環境の変化や課題を踏まえるとともに、すでに策定されております国及び県の第3期教育振興基本計画を参酌し、本市の他の計画との整合性も図りながら、第3期かこがわ教育ビジョンを策定することにより、令和3年度から取り組むべき施策を定めたいと考えております。

教育にかかわらず、基本計画というものは、どうしても国や県の計画を参酌するということになっておりますので、やはりどこも同じような傾向になってしまいます。全般的な教育行政について、国が示す将来像を踏まえながら、計画を立てることは当然のことではございますが、それだけではなくて、やはり加古川市には加古川市におけるこれまでの特徴であったり、逆に課題であったり、そういうものがたくさんあると考えております。そのような加古川市独自の課題への対応や、加古川市として特に取り組むべき問題について力を入れるなどの特色をこのかこがわ教育ビジョンに持たせることが大変大切だと私は思っております。例えば、本市におきましても、協同的探究学習ということで、子どもたちに考える力を持たせるということは、これからの社会にとっても大事だということで取り組んでおります。また加古川市ではスマートシティということでICTを社会の様々な分野で活用することについて、市長を先頭として積極的に取り組んでおります。教育行政においても、やはり教育提供水準というものを向上させるためにICTについて特化した取組が必要なかもしれません。また、昨今言われておりますダイバーシティ、いろんな人との関わり、多様な人間と協同して新しい課題に取り組んでいく、そういうことについても大きな課題というように認識をしておりますので、このようなことについて、何か特化してきたものを示すことができるのであれば、さらに良いのかなと考えている次第でございまして、あくまでも例としてお示ししたことでございまして、それ以外のことにつきまして、それぞれの委員の皆様が普段からお考えになっていることについて、忌憚のないご意見をいただきながら、このかこがわ教育ビジョンが中身のあるものになったらと本当に心から願っておりますので、委員の皆様方にこれからいろんな面でのご意見をいただきたいとお願いを申し上げまして、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

4 委員紹介及び会議の成立の確認

全委員の出席により、会議が成立していることを確認

5 職員自己紹介

6 加古川市教育振興基本計画検討委員会の概要説明について

事務局から、「資料1」及び「資料2」に基づき説明

7 (1) 委員長の選出及び職務代理者の指名について

委員の互選により、委員長については、安藤委員に決定

安藤委員長が職務代理者として、澤田委員を指名

【委員長あいさつ】

みなさん、おはようございます。委員長に推薦いただきました兵庫教育大学の安藤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。先ほど教育長からもご挨拶の中でありましたように、教育振興基本計画は似ているところがどうしても多くなるのは事実なのですが、やはりそこに加古川市独特の内容がどれだけ盛り込めるかというところが、鍵になってくると思っております。その点において、私は加古川市民ではありませんし、職場も加古川市にはありませんので、加古川市のことは申し訳ないですが詳しくはございません。しかしながら、ここに集まっている委員の皆様は加古川市に関係の深い方々ばかりですので、忌憚のないご意見をこの委員会の中でいろいろとご議論いただければいいのかなと思ひます。私の過去の経験でも他市の教育振興基本計画の委員をさせていただいたときに、やはりそこに住んでいる人のご意見で内容がかなり充実したものになったという経験がございます。そういう意味で期待を込めて、皆様方には忌憚のない意見ですとか、素朴な質問を遠慮なくご発言いただきたいと思います。その舵取りを私はさせていただくものだと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それともう一点、最近の教育の状況や世の中の状況を見て思ふのは、コロナの関係がどうしてもあります。例えば、私の分野でいう研究業界でも何かをしたとしてもコロナバイアスがかかると、要はこの状況の中での意思決定とか判断の話になってしまう傾向にあります。もちろん、このコロナ禍の状況において今後の私たちの生活のあり方とか、もっと言えば学校教育とか、もっと広ければ教育全体のあり方も今後変わっていくことが多分に予想されるわけですが、例えば、教育には不易流行というものがありますから、コロナの影響を見据えることとそれとは関係のない教育のあり方という両方の軸をもって考えていくことが必要ではないかと思ひますので、そのあたりも委員の皆様にはご発言を賜りながら、より質の高いかこがわ教育ビジョンの策定に尽力させていただければというように思ひますので、ご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

7 (2) 教育委員会からの諮問について

教育長から、「資料3」に基づき諮問

7 (3) 第3期「かがわ教育ビジョン」の基本的事項について

事務局から、「資料4」に基づき説明

議事内容（発言者、発言内容、経過等）	
事務局	「資料4」に基づき説明
委員	<p>ありがとうございました。第3期かがわ教育ビジョンの基本的事項について、事務局から提案がありました。まず計画の対象期間について、これまで5年で行われていましたが、国の計画期間とのズレが今後、大きな問題になるのではないかとということで、加古川市総合計画との間にもそこまで大きなズレがないのであれば、国との時期の関係を考慮して4年にしたいという提案でしたけれども、これについてご意見がございましたらよろしくお願ひします。もちろんこれ以外のことについても遠慮なく発言を賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>加古川市の基本理念として「ともに生きるこころ豊かな人づくり」がありますが、これはずっと変わらない基本理念なのでしょうか。と言いますのも、兵庫県が平成31年から「兵庫が育む こころ豊かで自立する人づくり」というように共に生きるというキーワードから自分自身でしっかり自立するといった「未来への道を切り拓く力」を重点テーマに加えることで、教育をする目的が若干変わっているようなイメージを受けたのですが、もし加古川市の基本理念がこの理念でずっと変わらず、今後もこれで行くのであれば、その理由をお聞かせいただきたいと思ひます。</p>
事務局	<p>基本理念については、この後の議事6の「策定の方向性」で議題にさせていただいているのですが、方向性については、国や県は前計画を継承しつつとなっています。そのまま生かすのではなくて、変更や追加も含め、加古川市においても検討していきたいと考えております。</p>
委員	<p>ということは変更しない可能性もあるけども、変更する可能性もあるということですね。こういった計画は基本的にまず基本理念から検討するべきと考えており、まずそこがどういう内容で進むのか気になったので、質問させていただきました。ありがとうございます。</p>
委員	<p>先ほど計画の位置づけで、加古川市総合計画の期間が6年間になりましたので、このかがわ教育ビジョンの期間をどうするかという説明の中で4年に短くするとありました。これまでは加古川市総合計画と同じ時期に5年間で策定してきており、もちろん加古川市総合計画にも子育てとか教育の項目がありますので、その中で加古川市の取り組む子育てや教育の方向性がズレないように連携できていたと考えます。かがわ教育ビジョンの期間を4年にした場合、加古川市総合計画とズレが出てしまうので、どのように連携していけるかを検討すべきだと考えます。4年が難しいと言っているわけではなくて、国や県の計画に基づいて市も策定したという内容だけに</p>

	<p>ならないように、加古川市総合計画における子育てや教育の内容との関連性を担保できるように、加古川市総合計画の審議会における教育の分野での議論内容を検討会においても参考にさせていただきながら、整合性をとっていった方がいいのではないかと考えます。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。今の話に関連して加古川市総合計画の策定において、こちらの検討委員会の議論内容が情報提供されたうえで策定されていくのでしょうか。先ほどのご質問とあわせてちょっとわかる範囲で教えていただければと思うのですが。</p>
<p>事務局</p>	<p>実際に加古川市の総合計画の策定にも専門委員会などで教育委員会の職員も関わっております。ただ今のサイクルで行きますと、加古川市の総合計画を策定する年度とかこがわ教育ビジョンを策定する年度が同年度になってしまいますので、加古川市の総合計画の内容が策定途中で、このかこがわ教育ビジョンを策定しなければならぬため、加古川市の総合計画の内容と整合をとろうとすれば若干ずれた方が我々としてもいいのかなという考えではおります。</p>
<p>委員</p>	<p>今年度は一緒にどちらも検討している状況なので、例えば、加古川市の総合計画の専門委員会の中の検討内容を情報提供していただければ、それを参考にしながら私たちも両面を見ながら検討ができると思いますので、対応をお願いできれば助かると思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど説明させていただいたとおり、加古川市の総合計画の策定にも教育委員会の職員が関わっておりますし、逆に我々のかこがわ教育ビジョンの策定にも検討幹事会の中で加古川市の総合計画の策定部署である企画部や子ども子育て計画を所管するこども部等に関わってもらっています。その内容につきましては、今後、素案をお示しする中で、加古川市の総合計画の方向性や子ども子育て計画の方向性等を含めてご説明をさせていただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>策定期間については、あまり長い期間にするのも時代の移り変わりが激しい中で計画内容がぼやけてしまう可能性があるため、第3期かこがわ教育ビジョンの期間としては、3年か4年という期間がいいのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>以前、市の各委員会に参画させていただいた経緯もありますが、各計画案がそれぞれ異なる年度区分というのは非常にわかりづらい。加古川市の総合計画の中で位置づけられているにも関わらず、それが全然反映されていないとか、逆の例もある。一概にどちらが良い悪いはないとは思いますが、今回、この図を見ると、次期計画はどのように整合性をとるべきかというところを少し考えた方がいいのかなと私なりに考えました。</p> <p>ありがとうございます。今の委員のご意見としては、様々な計画の策定の時期がず</p>

委員	<p>れることによって、その関連性も含めてわからない部分があるが、すべてにおいて反対なのではなくて、そういう関連性をしっかりと明記する、または私たちが議論できればというご意見だったのではないかなと思います。</p> <p>これ以上ご意見がないようであれば、事務局の提案通り、今回は4年ということでこの計画を策定する。ただし、今、委員からご意見ありましたように例えば加古川市総合計画等との情報共有を行い、それに連動したかがわ教育ビジョンにすること、また、年度の対象がバラバラになるような混乱を避ける等、そういった課題が解決されるような形でこの計画を策定するといった条件付きで事務局の提案とおり、4年間で議論していきたいと思います。</p>
----	--

7（4）加古川市の教育を取り巻く環境の変化と課題について

事務局から、「資料5」に基づき説明

議事内容（発言者、発言内容、経過等）	
事務局	「資料5」に基づき説明
委員	<p>先生方の負担が何にしても増えているなどすごく感じています。やっぱり子どもと関わろうと思うと自分がしなくてはならない事務的な仕事等はすごく後回しになってどうしても時間が足りない。先生方が遅くまで残っておられるのも見ているのですが、これを働き方改革で時間を短くするのは当然と思うのですが、本当に減らせるのかなと心配しています。結局、仕事は全部持ち帰って家でするようなことがあると、逆に良くないので、ただ時間だけを見てということではなく、本当に内容的に要らない仕事、減らせる仕事をもっとしっかりと確認していけるような体制をつくってほしいとすごく感じています。</p> <p>また、家庭や地域社会の変化というところで、65歳を超えても仕事に行かれている方がすごく多いと感じています。地域の方で子供たちを見守ると言っても一部の人に負担がかかっているなどすごく感じています。しかしながら、地域の人が思っているほど関わってもらっているのだと保護者が感じているのかということと全然伝わっていないところもあって、何か保護者に対して、もう少しアピールできる場所があったらいいのかなというのを、ぜひ頑張ってくださいたいところかなと思っております。学校現場がすごく努力しているわりには家庭の力が弱いなど感じるのので、そこに対しての何か少しできたらいいというのは感じています。</p>
委員	<p>この資料5に関しては、どの分野も非常に課題の大きな部分だと思います。本市の場合、人口減少は他市から見れば緩やかな方ですが、いずれ加速度的に減少する日がくると思います。そういった中で小学校や中学校、幼稚園において、学校そのものの規模が大規模校と小規模校といったように本市においてはいろんな学校があります。この辺のところも一つよく考えて、学校の編制なんかもしっかり考えてほしいと思います。</p>

<p>委 員</p>	<p>それから技術革新にしても、小学生の中でも多くの子がネットやSNSを使う。もちろん便利ですばらしい道具ですが、どうもそういった道具を使ってよくない情報を発信する。極端な例が、ご存じのようにそのことで幼い命を自ら絶つようなことまで起こっている。このことは非常に学校だけでなく、家庭や地域でも考えていかないといけないと思います。</p> <p>また、8番の学校の組織力強化と教職員の資質の向上ということにおいて、どの先生方も一生懸命やっておられるのは、もちろん存じておりますけれども、非常に時代が変わっていくとともに、スキルがついていかないということで、さっきのネットのことにしても、教える側の先生もしっかりとやってほしい。</p> <p>11番にあります学習指導要領の改訂についてですけれども、先生方の資質と言いましようか、スキルが特に人権に関しては率直に言って、少しまだ足りないのではないかと印象を受けます。道徳が特別な教科として位置づけられと謳ってありますけれども、道徳というのは確かに必要になるのであって、やさしさ、思いやり、どれをとっても大切なことで、みんなが共有しなければならないと思うのですが、ただ人権に関しては、やさしさや思いやりで超えられるのかということがあるのですね。そういったことを道徳の時間だけではなく、様々な教科の中で盛り込んだ指導のあり方をもっとしっかり取り組むべきだと考えます。例えば在日問題にしても、昨今外国をルーツに持つ子どもたちも場所によっては多くなってきています。それだけでなく、LGBTにしても、小学生の間はまだ本人が気づいてない段階ですがあります。先生方はよく学習しておられるのですが、在日問題、部落問題、障がい者問題などどの教科を通じてもちやんと染み込ませた教育ができるような学校教育であってほしいと思います。しっかりと教える側が確固たる力量を付けて教育を進める。算数や国語と違って、誰が教えても答えが一緒ということではないですし、特に部落問題に関しては、児童生徒の中でどうしてもマイナスイメージとして、残ってしまう。こういったことをきちっと踏まえた上でのかがわ教育ビジョンになるようにしてほしいと思います。</p>
	<p>今、それぞれご意見を頂戴したわけですが、やはり一つは働き方改革のことがあります。単なる時間の削減ではなくて、おそらく働きがいとか、そういったものももっとというご意見だったと思います。あと教育は学校だけでなく家庭や地域とか、それこそ先ほど事務局の話にもありましたけど、総がかりでやっていかなければいけないとご指摘されたと思います。</p> <p>次に、学校の規模の差を加古川市としては、きちんと均等には難しいかもしれませんが、やはり格差のないように教育環境の整備をどうしていくか、というようなご意見でした。またICTというような新しいものへの対応とやはり普遍的な人権に対するこれまで以上の充実した指導というのでしょうか、というものについてご指摘いただいたわけですが、これらの中で現状事務局から何かご回答いただけるものがあれば、ご回答いただければと思うのですがいかがでしょうか。</p> <p>まず一点目の教員の働き方改革についてですけれども、これにつきましては勤務時間</p>
<p>事 務 局</p>	

適正化というところで平成 28 年度あたりから教育委員会としても学校を指導しております。国の方でも調査がありましたが、過労死レベルの教員が中学校で約 6 割近い割合となっておりますが、本市で調査をさせていただいたところ、中学校では改善して約 30 パーセント、小学校では約 4 パーセントでした。これは月の超過勤務時間が 80 時間を超えている教員を調査しております。ただ、今年度は特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策で学校休業していましたが、6 月 1 日から分散登校という形で再開しております。当初の授業は 1 日 6 時間でしたが、分散登校実施において、午前 4 時間、午後 4 時間のため、1 日 8 時間の授業した後に消毒作業しているということで現実的に教員の負担が増えている現状もあります。国や県の方からも補正予算を組んでいただいているので、今後そのあたりをサポートしていただけるスクール・サポート・スタッフを配置できるように我々も市として手を挙げているところですので、なんとか少しでも改善したいと進めております。

次に教員の資質向上について、特にご指摘のように、教科についてもそれ以外のところについても、資質の向上が問われているところであります。年 2 回の職場人権研修、倫理研修を実施し、教員の資質向上についても進めているところです。ただ、教員の大量退職及び大量採用の時代が続いております。今年度も新規採用教職員が本市で 55 名ということで非常に若手の先生が増えているというところがありますので、この辺りも指導技術の伝承をいかにしていくのかということが大きな課題となっております。教科的な部分と先ほど指摘がありました新たに教科になった道徳も含めての教科横断的に指導できるように学校の方でも取り組んでいく最中でありますので、あまり偏ったということがないように形で、指導技術向上に向けて取り組んでまいります。

学校規模の適正化という面では、加古川市の児童生徒数については、やはり徐々に減少しております、学校規模についても地域の差もかなり大きくなってきております。子どもたちのより良い教育環境の確保が当然必要になってきておりますので、これまでも国の法令や学校規模の状況、アンケート調査結果等も踏まえまして、学校規模の適正配置の基本方針というのを昨年度定めております。学校規模適正化を検討する範囲におきましては、地域の実態も当然踏まえたうえで、今後取り組んでいく必要があると考えておりますので、今後重点目標や取組の中にも加えさせていただきたいと考えております。

技術革新についてですが、本市の状況として、今年度中に一人 1 台のパソコンを準備しまして、パソコンを特別な道具として扱うのではなくて、いわゆる計算ドリルや鉛筆であるとか文房具の一つとして向き合うことができる環境の整備に向けてやっております。最も大事なことについては、道具に使われる人間ではなくて、その ICT を生かしながら自分を伸ばしていったり、友達との関わりを増やしていったり、そういうことを大事にしていくべきであると考えております。

続いて人権に関する教員のスキルですが、本当に委員のおっしゃられるとおりで、私たちもネットが生む差別や日常生活の中、部活の中での差別もあると考えております。これについては私たちも忌々しき事態であると常に考えております。さらに先ほど委員もおっしゃってました LGBT だとか、ヘイトスピーチの話だとか、部落差別

	<p>それから障がい者差別については、知識そのものについては、学年に応じて教えていかなければならないのですが、最も大事にすることは、小さいうちからいわゆる仲間づくり、友達の痛みがわかる、そこを大事にする教育というのが学校教育では大事だなというように思っております。単に仲良しグループを作るという意味ではなくて、痛みがわかってじゃあ自分はどうするのかとそういったところをしっかりと考えられる子どもに育てるというように思っております。</p>
<p>委 員</p>	<p>人口減少社会の到来というところで加古川市の人口推計結果を見ますと、65歳以上の区分と15歳から65歳までの区分とだんだん減少しているのがわかるのですが、特に高齢者社会になって、高齢者の人も自分の力を発揮したいと思っていられる方もたくさんいると思います。子どもの小学生時代や中学生時代とか学業をメインで勤まないといけない時期でも、なかなか先生だけの力で見れないということもあるかと思えます。塾とかに行っている子どももいらっしゃるのですが、反対にそうでない家において、なかなか保護者で見てやれないとか塾にも行ってないとかになると、だんだん格差というか差が開いていくと思えます。そういう場合に高齢者の方たちの力をもっと利用させていただいて、その学力の向上になるために有償ボランティアなどで、こういう子どもたちへの学力向上のために一役買っただけだと思います。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>これまでも加古川市ではユニット12として、家庭、学校、地域で連携して地域総がかりということが進められてきましたが、各学校園に学校運営協議会を置くことでそれをさらに進めていきたいと考えております。さらにその間に地域コーディネーターが学校に入っただけでいいと思いますので、もし各地域でお力をお貸しいただける方がいらっしゃいましたら、学校支援ボランティアとして登録していただくことが可能です。現状すぐに有償でというのは難しいところではありますが、お力を貸しいただけたらと思います。国の方からも実は地域からのボランティアということで、退職者や退職教員のお力をお借りするというアイデアをいただいているところで、我々もわかる範囲でお声がけをさせていただいているのですが、なかなか現場から離れて時間が経っているというようなお声もありますので、そのあたりも調整しながらお力を貸しいただければ非常にありがたいと考えているところです。</p> <p>先ほど委員からも家庭の力のご意見もあって今、地域の力の部分へのご心配だったと思うのですが、本市の場合はなかなか有償でというのは難しいのですが、市でやっているウェルビーポイント制度とかいうので、わずかですけれども、ポイントを付与させていただいて、何か商品を取り換えていただく、という制度もございまして、そういった部分を通じて学校には様々な方のご協力をいただいて、なかなか教職員と教育委員会だけで対応できない部分を地域の方にお世話になっているという現状がございまして、そういう意味で第2期かこがわ教育ビジョンでもそのようなのですが、大きな方向性の一つとして取り上げているのが地域総がかりの教育ということでありまして、学校だけが、教職員だけが頑張るのではなくて、地域の皆さんのご支援をいただきながらやっていく。それは高齢者の方も含めて、一人一人がそれぞれの個性や能</p>

<p>委員</p>	<p>力を発揮していただいて、地域社会の中で活躍いただく、その中で学校への関わりや子どもたちへの関わりなどを今後定めていく方向性の中では、具体的に項目を挙げて、それに対して、我々も取り組んでいきたいなというように考えるところであります。</p> <p>少し気になったのが、12ページの10番の厳しい財政状況下でのという書き方で、財政状況が厳しいのはわかっているのですが、あえて項目で書く必要があるのかなと思います。マイナスイメージがあるので、もうちょっと前向きな印象にしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。指摘ありました点については、改めて修正の案を考えたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>

7（5）国及び兵庫県の第3期教育振興基本計画について

事務局から、「資料6」に基づき説明

7（6）第3期「かがわ教育ビジョン」の策定の方向性について

事務局から、「資料7」に基づき説明

<p>議事内容（発言者、発言内容、経過等）</p>	
<p>事務局</p>	<p>「資料7」に基づき説明</p>
<p>委員</p>	<p>この教育の基本理念とか目指すべき3つの具体的な人間像に対して、達成されていると感じられる部分が各現場でどれくらいあるのかなというのがすごく気になるところで、先ほども言われたようにSNSでいじめというのが、増えています。しかし、学校現場ではそれが見えない状況になっていて、問題化してから現場にくるような状況で、この状況でどのように心温かい人っていうのを作って行けるかというのが、一番大事なところであり、一番難しいところだろうなと思っています。ただ、先生方は本当にすごくお忙しくて、余裕がないのも感じられて、先生方自身がそこまでの人の心の大切さみたいところを伝えられるのかなと少し気になります。さらに部活動で本当に先生方が全体的にも人を大切にするとところに気持ちをもっていけるのかなと少し疑問に思ったりもすることもあります。大半の先生方は素晴らしい先生方なのですが、全体として本当に、それができているのかなというのが気になっているところです。ともに生きるというのはすごく大事だと思います。相手のことを考えるというのは、すごく大事にしてほしいところかなと思うのですが、日本人は自己肯定感が低い人が多いというのをすごく昔から言われていることで、自分自身がどれだけ大事かということ、どんなことでも認めてあげられる場を作りたいと思います。どうしても勉強できる子たちが、すごく認められる場が多いと思うのですが、そうでない子たちの認められる場っていうのはなかなかやっぱり少ないと感じます。3年前から保護司をさせてもらっているのですが、担当している</p>

	<p>子どもたちはやっぱり勉強がちょっと苦手だった子たちで、少し躓きながら、生きていくとすごく感じます。できる子たちは放っておいてもできると私は思うので、そうではない子たちをどれだけ救い上げてあげられるか、それをできる子たちがどれだけカバーしてあげられるかというところで、人を思いやる気持ちももう少しもってもらえるのかなと思うので、全体的に何か学校でも取り組んでもらえたらと思います。本来は家庭ですることなのですが、学校でもそういった子たちが認められる場を考えていってもらえたらなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今、全体的にICTの導入であるとか、インターネットやSNSということで、デジタルの方向に全体が向きがちというのは否めないのかなと思いますし、実際に今後そういうことが必要になってくるという部分があると思います。子どもたちがいろんな場面で例えば人とのつながりであっても、その他インターネットやパソコンでいろんな情報を得ることはできるのですが、その中でどれだけ自分が体で感じるような直接体験ができるのかっていうところも大切にしていけない部分だと思います。私は自分の研究や実践の中心が幼児教育です。幼児の場合は抽象思考っていうのがまだまだできません。ただ、最近は色々スマートフォンを触る子どもたちもいますけれども、やはり教育の中心は直接体験をいかに保障していくか、そしてその直接体験の質をどのように担保していくかっていうところです。その部分において、低年齢からスタートしていく教育がどれだけ、子どもたちの年齢が上がってきても大切にしていだけるのかっていうところも、織り込みながら考えていけたらなということを思いました。</p> <p>委員</p> <p>例えば学校で先生が子どもを叱った際に、保護者に対して先生から今日こういうことで叱りましたとか、こういうことがありましたっていうのを家庭に情報がもらえれば、家庭の中でも子どもの教育に携われるのかなと思いました。あと、やはり先生の教育の方法が幼稚園と小学校は全く違うなというように感じておりました、幼稚園の先生は一人一人を見ていただいて、この子はこれができるからすごい、この子はこういうことができるっていう区別とかあまり差をつけない、すべての子ができることをほめてもらえるのですが、やはり小学校になってしまうと、学習というところの観点から勉強ができる、この子は勉強がちょっと苦手っていう眼鏡というかフィルターがかかってしまっているのかなというのは親として感じるところです。いつまでも幼稚園のような教育をしてほしいと言っているわけではないのですが、やはりその子自身が伸びるところというのを小中学校の先生も暖かく伸ばせるようなそういう余裕がある学校現場にしていだければと思います。</p> <p>あと家庭のあり方というか、幼児期からのあり方なのですが、やはり本当に小さい子どもをかかえたお母さんで、自己肯定感というか、私は何もできないのですとか、この子は何もできないっていうお母さんが結構いらっしゃって子どもを見るというよりもお母さんを支えてあげる、お父さんを支えてあげるあと夫婦間で価値観が全然違ってしまっていてそれが悩みだとかっていう、やはり家庭を支える市としての大きな受け皿が子どもの小さいころから必要だなと昨今感じているところです。</p>

委員	<p>ここの議題としては、第3期かこがわ教育ビジョンをどういう方向であるかということだと思っておりますが、第2期かこがわ教育ビジョンで実施した反省点や成果や課題がちょっと見えないので、なかなか方向性が現時点でわからないということと、具体的には23ページの真ん中以降に教育の基本理念とか目指すべき3つの具体的な人間像等が書いてありますが、これらは第2期かこがわ教育ビジョンの反省を踏まえて、成果を勘案して出てきた言葉なのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>先ほど、総括が見えないというようなお話もありましたし、それから実際に具体的な人間像の評価というものもありましたので、資料9の31ページを見ていただきたいのですが、この後の議題での資料になります。第2期かこがわ教育ビジョンにつきましては、計画年度が今年度までとなっておりますので、最終的な評価というものではないのですが、一旦総括として中間的な評価を各重点項目の中から成果や課題として、今後の方向性をこちらでまとめた内容となっております。また、教育委員会としては、点検評価を毎年実施しておりますので、その中で、実際の進捗状況であるとか、評価であるとか、具体的な個別の事業については行っております。ただ24ページを見ていただいて、総括的な部分で加古川市の教育が目指す基本的な方向をとりまとめたような指標、総括的な部分については資料につけておらず、わかりにくいというご意見をいただきましたので、基本的方向の少し大きな部分でまとめたものを、第2回加古川市教育振興基本計画検討委員会でまたご説明させていただけたらと思います。</p>
委員	<p>おそらく今、この議論している方向性というのは、やはり総括があつての方向性だと思います。この第2期かこがわ教育ビジョンの進捗を見たときに、この理念なり人間像とか基本的方向性を重視した15の重点目標をというのをたてられていると思いますので、その具体的な総括については事務局から資料を出していただくということで、その点については、今日はご了承いただければなというように思います。</p> <p>少し私からですけども、もちろん総括してこういうことが課題として積み残されているっていうのは必要だと思うのですが、悲観的内容だけだとちょっと悲しくなりますので、大事なことはよかったことだと思います。こういうことが変わりましたという成果をアピールしてほしい。そのうえでこういう課題が積み残されているから第3期かこがわ教育ビジョンはこういうふうに取り組んでいきますというもの次回拝見できればなと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>よかったことも第3期かこがわ教育ビジョンのテーマとしてあげたらどうか。</p>
委員	<p>よかったことはもちろん第3期かこがわ教育ビジョンでも継続してやりましょうというのは必要なことだと私は思っておりますので、そういう両面をそろえられるようなものになればいいかなと思っております。</p>
委員	<p>さっき言われたように良かったところも入れる際に一番関わってくるのは現場の</p>

	先生方だと思いますので、この目標にむかって達成できたなっていう達成感の感じられる内容になるように是非お願いしたいです。
--	---

7 (7) 第3期「かがわ教育ビジョン」における指標の設定について

事務局から、「資料8」に基づき説明

議事内容（発言者、発言内容、経過等）	
事務局	「資料8」に基づき説明
委員	私は例2に記載のあるような個別に具体的な指標を設定した方が書く方としても書きやすいと見て思いました。それから先生の負担にならないように配慮を願いたいと思います。
事務局	指標については、重点目標が決まった段階でそれぞれ主となる担当部署が決まります。そちらが具体的な数値を把握できる部署になりますので、各部署が中心となって指標を設定し、なおかつ幹事会や検討委員会に諮ったうえで設定していきたいと考えております。
委員	元のデータを収集しなければいけないのではないかと。
事務局	実績については、元となるようなデータを各担当課にて確認の上、目標値を設定する流れになると思います。
委員	学校の先生の負担にならないようにということですが、このような指標の話になったときに指標を見て学校の先生のやる気が出るのかと言われた委員もいらっしゃいますので、そこは学校の先生とかこれに関わる人にとって、勇気のあるような指標の設定になることを願いますし、また出てきた指標については、私たちの方が本当にそういうものになるのかどうか、きちんと議論をしていきたいと思います。お手数をかけますが、原案の方は事務局の方をお願いできればと思います。
委員	指標についてですが、市民とか保護者が見た指標と実際に現場で教育に携わっておられる先生方が出される指標の感じ方に必ず差がでてくると思います。そちらを両方の視点を持った指標としていった方がより良いのではないかと思います。
委員	29 ページに指標の区分で指標が具体的すぎると大きな計画への進行が図れないと言われておりますけども、既存の区分で数値があるものに対して努力的な数値という指標で見るとあまり極端な変化というのは出てこないと思います。しかし指標の水準として挙げていける素材があることによって次の課題が見えてくるという点もあると思います。今言われたように、教育の先生方の視点、また教育委員会の主観的な視点、それから地域とかそれにかかわる人の視点が全部違ってくると思うのでこれらを

	<p>どのように評価の区分として設定できるのか、具体的にその指標に対して分かり易い表現を使っていたらなと思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>今いただいたご意見はかなり重要な意見だと思います。同じ指標でも誰がそれを評価するかによって変わるっていうのは、芥川龍之介の藪の中と同じように感じます。一つの事件が語る人によって全然違うから、事象の見え方が違う。評価のところですが、全部を3者で見ると、これは負担にしかありませんので、そこをどううまく取っていくのかというのは原案を踏まえて私たちが色々議論しなければいけないのかなと、今の委員のご意見を聞きながら思いました。それについて事務局としてのご見解があれば、よろしく願いいたします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>色々ご指摘をいただきありがとうございます。確かにおっしゃられますとおり、見る主体によって評価が変わってくるようなものは逆に指標としてはなじまないのではないかなと思います。たとえばここに例示であげておりますように、学校支援ボランティアの活動された延べ人数となっているのは、教員の目から見ても地域の目から見ても、教育委員会事務局から見ても変わらない客観的な数値になりますので、こういったものが指標としては適切だと思っております。ただし、重点目標の内容によっては数字だけでなかなか評価できないものも含まれてくるかと思っております。そこは今、ご意見頂戴しましたように、見る視点によって大きな差が生じないような内容や表現というのを指標として考えていかなければ、定量的に測れるものばかりではないと思っておりますので、そこは今後指標としてご提案させていただくときにしっかりと事務局として吟味してまいりたいと考えております。</p>
<p>委 員</p>	<p>これは私の個人的な意見ですけども、視点によって差が出てもいいと思います。そこに差が出るということは、そこに何かがあるってことなので、それを次の検証につなげていけばいいので、評価者によって差がでるでないということはそこまで深刻な問題ではないと思います。全部で出ると大変だなというのは先ほどお話したのですが、でも確かにおっしゃる通りにやはり客観的な数字で事実としてわかるようなものがあるのであれば、それはそれで大切にしなければいけないので、やはり今事務局からの説明もあったように、どのような重点項目になるかによって、どのような指標が一番いいのか、本当に具体的な事実としてわかるものがあるのか、それとも当事者同士の主観でわかるものがあるのかともあると思いますので、その辺の事務局の方から原案が出てきて、この委員会で色々ご議論できればなと思います。</p>

7 (8) 第2期「かがわ教育ビジョン」の総括について

事務局から、「資料9」に基づき説明

議事内容（発言者、発言内容、経過等）	
事務局	「資料9」に基づき説明
委員	<p>33 ページに人権教育の推進とあります。近年、ベテランの教員がたくさん退職され、年齢の非常に若い教員が増えています。そういった中で、私は学校に行ってお話を聞いてもらうのですが、かつては教職課程の中で2 単位の人権の講座をとっていました。ところが現在はほとんどの教職課程でそれが無い。教員になった方がいつから人権の指導をされましたかという調査によると、教職についてからというのが非常に多いということがわかりました。もちろん大学や教授にもよるのですが、人権に触れることが非常に遅く、しかも学校現場は非常に働き方問題もあるのですが、そういった学習スキルを身に着ける時間がとりにくくなってきたと感じます。そういった中でやはり教える側として、人権教育をしっかりと学習してもらうことが教育に対する大きな力になるのではないかと思います。差しさわりのない程度の授業で終わってしまうことよりも、もっと私たちの周りの生活の中で人権問題というのはどの分野でも切っても切れないような環境にあります。特に学校教育の中では、人権教育がより必要になってくる時代を迎えております。忙しい教員ももう少し合理化をしてゆとりを持ち、そのゆとりがあることによって、スキルアップを図ることが非常に大事ではないかと思います。もちろんこれも学校によっては温度差があるように思うのですが、この辺もしっかりと捉えて、今後の方向性としてスキルアップを図るということを是非お願いしたいと思っております。</p>
委員	<p>教職課程は大学でしっかりとやらないといけないことなので、今大学側としての責任も感じさせられました。私はその教科を担当してないですが、大学でどれだけ真剣に講義されているのかということと、どれだけ学生に効果的に指導できているのかというのは別の問題なのですが、大学教育としても考え直さないといけないと感じました。学校としても先ほどから色々と研修等を実施しているとありましたが、やはり人権は基本としてきちんと守ったり、それを教えていかなければいけないと思っておりますので、新しいかがわ教育ビジョンでもそれは根底にあるものとして、私たちは議論していかなければいけないかなと改めて考えさせられました。</p>
委員	<p>31 ページの1 番の件で、ユニット 12 や学校評議員、今年度からは学校運営協議会等がありますが、常に何か組織される時に思うのが、当たる役職というか、人選内容が市内全部横並びに感じます。でも加古川市の中でも地域性がすごくあると感じていて、そこに当てはまらないけど、この人に入って欲しいという場合がたくさんあると思います。なのであまりにも縛りを作ってしまうとその地域の特徴や学校の特徴等も出にくいのかなとすごく感じるので、もう少し柔軟な感じで、それぞれの学校運営に関わってもらいたいと思っています。</p>

	<p>35 ページの 9 番の件で、学校不適応児童生徒に対する指導や支援がありますが、不登校も様々な理由があると思うのですが、何年か前から言われている中年の引きこもりが今、日本はすごく多いということで、一番の働き手のところが引きこもってしまっていると言われていています。昨年たまたま引きこもりサポーターの講習に参加したのですが、中学校から高校に進学するときの連携ができていないというか、引きこもり支援の施設が近辺だと姫路市にあります、中学校までの情報が入ってこない、中学校の間も関与できていたら、その後も関わり易いと感じるが、だいたいその引きこもりサポーターの支援施設には、高校生くらいからの人たちが関わってくるので、もう少し早い時期から関われば、もっと支援できたのではないかなという話もされてきました。そういうところと何か連携が取れるのであれば、是非取っていただきたいと思います。加古川市でもそういう施設を作っていくという話も聞いたので、是非連携して、少しでも引きこもりのないようにしていただけたらと思います。</p>
委員	<p>コロナ禍で、引きこもりの児童生徒がオンライン授業を行うことによって、勉強に意欲がでてきたという報道がされていたので、もし加古川市でも実施できるのであれば検討してもらいたい。</p>
委員	<p>31 ページの地域総がかりの教育の項目内の放課後等の子どもたちの体験・交流活動等の場所づくりにおいて、今は児童クラブが一番多いと思いますが、私たちが子育てしていたころは、児童館がたくさんありましたが、今は志方児童館だけで行われているのでしょうか。あと利用者の数が年々減少しているというのは、どういうことが原因なのでしょう。</p>
事務局	<p>児童クラブが現在、すべての学校に設置されたため、児童クラブに行く児童が増えている現状から、児童館へ行く子どもの数が減っていると思います。児童館と児童クラブは全く別組織で動いていますが、児童館のニーズがないわけではなくて、児童館を活動の場としたいという子どもたちもいますが、時間帯が児童クラブとどうしても重なったりしますので、児童クラブに行っているという傾向があると聞いております。</p>

7 (9) 第3期「かがわ教育ビジョン」の策定スケジュール（予定）について

事務局から、「資料 10」に基づき説明

その他全体を通して

議事内容（発言者、発言内容、経過等）	
委員	<p>今日振り返りでもし何かご発言ご質問ありましたらさかのぼって、また頂戴したいのですが、ご意見やご質問のある委員はいらっしゃいますでしょうか。</p>
委員	<p>委員会の冒頭に委員長自らも言うておられましたが、今回のコロナの影響というの</p>

	<p>は、教育現場だけではなく、混乱があったかと思いますが、この災害等における区分、つまり、危機管理の区分としての項目というのが今後重要になってくると思うように思うのですが、加古川市の総合計画の方でも色んな内容としてでてくるのかなと思いますけども、教育現場の中でも記載があってもいいのではと感じました。</p>
<p>委 員</p>	<p>今の件については、何か市としての方向はありますか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>コロナの件については、実際に様々な分野で大きな影響を与えているという状況で、生活様式等を含め大きく状況が変わってきております。今後の直近の状況を考えても、第2波や第3波というような可能性もでてきていますので、また情勢が大きく変わるとは思います。現時点でどこの項目にどのように記載していくかをこれから当然検討していくことになると思っております。例えば感染症に対する安全対策でありますとか、臨時休業等の学習機会の確保でありますとか、教育環境整備についても今後の重点目標や取組の中では、触れていく内容になると思っておりますので、検討してまいります。</p>
<p>委 員</p>	<p>今回のかこがわ教育ビジョンですが、また次回にテーマを事務局から提示いただくということで、またそれを基に考えていきたいと思うのですが、今回4年間という比較的短い計画の中で、加古川市の教育について、ここを重点的にやっていきたいというようなサブテーマを付け加えるようなイメージもいいのかと思っていて、先ほど他の委員からも具体的にどんな目標に子どもたちを導くのかという内容が、まずないという意見もございました。この4年間のこのかこがわ教育ビジョンがどこに重点を置くのかということが分かり易く表示ができればなと思っています。それも一緒に考えていかせていただけたらなと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>

8 閉会